福井ふるさと学びの森　若狭エリア　第３回体験イベント
「虫と森の不思議な関係」

１　日　時　平成２７年８月９日（日）１０：００～１５：００
２　場　所　福井ふるさと学びの森（若狭町気山）
３　参加者　小学生親子等２３名
４　内　容

（1）　持ちつ持たれつ虫と森

里山里海湖研究所の北川主任研究員から、里山に棲む虫と森の植物との関係についての説明がありました。

森には植物をエサに暮らす虫が多くいます。だけど、そんな虫は森にとって悪者でしょうか？植物も食べられるだけではなく、上手に虫を利用しています。虫に花粉や種を運んでもらったり、お互いに利用しながら虫と植物は暮らしています。

クイズで参加者に渡されたのは、折り紙で作ったいろんな虫と折り紙の花。虫と花を組み合わせて、どうすれば虫がうまく花粉を運んでくれるかを考え、植物が虫を利用するための工夫を学びます。

説明をする北川主任研究員

折り紙で作ったチョウやイモムシ、どの虫を使うかでクイズの正解が変わります。

（2）　虫のお食事見学

ふるさと研究員でもある里山ねっこの萩原さんの後について、「学びの広場」から山道を登ります。樹液に集まる虫のお食事の様子を観察し、木が太陽の光を受けて虫の食事を作っていることも知ってもらいます。念のためいくつかの場所には前もって蜜をしかけておきましたが、蜜を仕掛けたところ以外にも、いろんな虫が！セミ、トンボ、クワガタといったおなじみの虫以外にも、ヤスデやクモ、ゴキブリといったあんまり人気が無い虫も‥。おっかなびっくりで大きいムカデを観察したりします。

いろんな虫をみつけながら山を登ります。

大きなムカデにもこんにちは。少し離れて観察します。

（3） 野外料理（アユの塩焼きと、虫を食べる）

お昼はみんなでアユの塩焼きを食べました。

森に降った雨は川を流れ、湖や海に灌ぎます。豊かな森から得られる栄養は水の中でも多くの生きものを育みます。森と川の恵みとして、この時期旬のアユをおいしくいただきました。

ちょっとしたおつまみとして出てきたのは、虫。虫も昔から大切な栄養源として利用されてきました。虫をテーマにしたイベントだから虫も食べてみないと、ということで、市販のハチノコやイナゴの佃煮をつまみます。

‥そして、食事をひと段落した頃、出てきたのは、セミ。素揚げにしたセミをいただきます。正直ハードルが高いこの食材にも数人が挑戦しました。

夏の暑さにも負けず、じっくり焼いたアユをおいしくいただきます。

虫は、美味しく食べる人、挑戦して食べる人、食べれない人に分かれました。
「味はともかく、姿が‥」という感想、このイベントで一番勇気が必要な体験でした。

（4） 虫のお絵かき

細い丸太を薄く切った円盤に虫の絵を描きます。今日観察した虫を、思い思いに描いた円盤は、おみやげとして持ち帰り、飾ったりコースターとして使ったりします。

虫は意外に描くのが難しく、足の本数や生えている場所を間違える方も多いのですが、今回参加した方はみんな上手に虫を描いていました。